

響

ひびき

真宗大谷派 道誠寺報

No.23

2010年5月28日 発行



絵 百田 稔さん

☆時間変更のお知らせ☆

書道教室 16時より 同朋会 18時より

行事のお知らせ(6月、7月)

行事の報告(4月、5月)

法語



今、いのちがあなたを生きている

真のよりどころを 求めて

6 月

行事のお知らせ

10日
(木)

- にもくかい
- ・ 二木会
 - ・ おみがき会
 - ・ 14時～

13日
(日)

- ・ 日曜法話会
- ・ 14時～
- ・ 講師 柳瀬 美津子 師
玄中寺住職

24日
(木)

- ・ 書道教室 写経
- ・ 16時～ 青山 美智子 師
- ・ 同朋会 どうほうかい
- ・ 18時～ 小林 尚樹 師

☆時間変更しました☆

7 月

8日
(木)

- ・ にもくかい 二木会
- ・ 14時～

22日
(木)

- ・ 書道教室 写経
- ・ 16時～ 青山 美智子 師
- ・ 同朋会 どうほうかい
- ・ 18時～ 清谷 真澄 師

☆時間変更しました☆

上記の行事はすべて会費
ありません。

「二木会」は門徒さんの親
睦を深める楽しい会です。
初めての方でもお気軽に♪

「同朋会」は『正信偈』を
皆でお勤めした後、真宗の
教えに遇う大切な場です。

電車を御利用の方は、市
川大野駅まで車で送迎致し
ますので、お寺に電話御願
い致します。

(TEL) 047-3337-5305



行事の報告

4月

8日(木)

「二木会」
にもくかい

参加者

※ホームページ上では

公表しません。

十名参加

市川市霊園にて、お酒や
ジュースを飲みながら、桜の

お花見をしました。その後、
喫茶店にて皆で楽しくお
話をしました。



初めての方大歓迎です♪
楽しいので来て下さいね。

11日(日)

「日曜法話会」

参加者

※ホームページ上では

公表しません。

十二名参加

講師 青柳慶英



栃木県にある西宝寺住職、
青柳 慶英 師を講師として
お招きしました。

占い、迷信などの慣習・習
俗・風俗にとらわれ迷ってい
る、人の目や世間体を気にし
た人生を送り、主体性がな
い、自分をそのままにしてまわ
りや他を変えようとする私
たちのあり方を、日々の生活
を振り返り色々な問題を視
点にお話し下さいました。
そして、それを見なおす、
覚めさせるもの(真実)に出遇

うことであり、その一つに聞法
があり、そのはたらきが称名
念仏であります。

「住行業之地」

じゆぎようごうしじ

行業の地に住す

これは、『仏説無量寿経』の
言葉で、「行い(仏法を聞く)に
よって、自分の住む世界が決ま
る」ということです。

蓮如上人の言葉の「後生の一
大事」を一人ひとりがしっかり
といただくことで、生活の中に
充実が生まれるのです。



↓↓法話中の様子

日曜日のお昼に
やっています♪
6月と10月も
是非お越し下さい。

22日(木)

「書道教室」「写経」

「同朋会」どうほうかい

書道 写経 参加者

※ホームページ上では公表しません。

四名参加

同朋会 参加者

※ホームページ上では公表しません。

十七名参加

講師 清谷真澄

今年の同朋会は、「正信偈」について学びます。そこで今回は、

清谷先生から「正信偈」の構造や内容を簡単にご説明いただきました。またお釈迦さまが説かれた「阿弥陀仏」と「願い」の言葉についてもお話されました。浄土真宗の御本尊は阿弥陀仏です。お内仏(お仏壇)の中心には、阿弥陀仏が仏像や掛軸として安置されております。

しかし本来、阿弥陀仏というのは色も形も匂いもありません。阿弥陀仏とは、私たちに向けられている「はたらき」であり「願い」なのです。

「南無 阿弥陀 仏」

同じ

「帰命 無量寿 如来」

「南無 不可思議光」

豆知識

「正信偈」とは、六十句百二十行からなる偈文です。經典ではありません。

インドのお釈迦さまの教えが中国、日本に伝わり、親鸞聖人がその感動を詠ったものです。内容は『仏説無量寿経』についての依経段と「三国七高僧」についての依釈段に分かれます。

5月

13日(木)

「二木会」

参加者

※ホームページ上では

公表しません。

十三名参加

市川市動植物園へ、散歩がてら、藤の花を観に行きました。



↑ ピクニック気分で♪

↓ 出発前は道誠寺で集合



27日(木)

「書道教室」「写経」
「同朋会」

書道 写経 参加者

※ホームページ上では公表しません。

九名参加

同朋会 参加者

※ホームページ上では公表しません。

十八名参加

講師 清谷真澄



五月の同朋会では、依経段の

法蔵菩薩因位時
在世自在王仏所
親見諸仏浄土因
国土人天之善悪
建立無上殊勝願
超発希有大弘誓

五劫思惟之摂受 重誓名声聞十方

の部分について清谷先生からお話をいただきました。

ここは「法蔵菩薩のものごと」について述べられております。

(左頁参照)

また「私」と「法蔵」についてお話しされました。

普段の生活において何気なく使っておる「私が」、「私は」という「私」は何を指しているのでしょうか。「私」というのは、相對するものがあってこそその私であり、生きてきた今までの経験で語る私です。しかし「私」の心の奥底には皆「法蔵」があるのです。

「法蔵」について、「法」とは「真理」「経験」という意味を持つところから、「何もかも全てしまつてある」ことを意味するそうです。つまり「一切万法の蔵」なのです。「法蔵菩薩」はものがたり上だけの存在でなく、そして「私」と無関係にあるのではなく、誰しもの心の奥にあるのです。

人心の至奥より出ずる

至盛の要求の為に

宗教あるなり

清沢 満之

ほうぞうぼさつ
法蔵菩薩のものがたり

5月 同朋会

ある日、阿難尊者あなんそんじゃがお釈迦様しゃかさまの顔を拝見したところ、お釈迦様は、いつになくすがすがしい様子で、顔は歡びに溢れあふ、光輝いているように見えました。そこで阿難尊者は、そのわけを尋ねました。するとお釈迦様は、こうお応えになりました。

釈：「あなたはとてもよいことを尋ねた。私がこの世に現れたのは、教えを説いて人々を救い、真実の利益りやくを与えるためなのだ。私が歡びに溢れているのは、人々に真実の利益を明らかにする時がきたからなのだ」と。

そう言って法蔵菩薩のお話をしはじめたのです。

釈：「遠い遠い昔の、そのまた遠い昔、世自在王仏せじざいおうぶつという仏がおられました。また一人の国王がおられました。国王は、その仏の教えをお聞きして、心からの歡びを懐いだかれたのです。そして自分も仏と成って、世の人々を悩みや苦しみから救いたいと願いをおこされたのでした。国王は国を棄て、王位を捨てて、世自在王仏のもとで出家して修行者となり、法蔵と名のられました。」

これが法蔵菩薩のお話の始まりです。

法蔵菩薩は、世自在王仏に願います。

法：「私は道を求めたいと思います。どういう世界が私の救われる世界(国土)であり、どうすれば、それを獲得できるのでしょうか」と。

(続きます)

ほうぞうぼさつ
法蔵菩薩のものがたり

世自在王仏は応えられました。

世：「それは、あなた自身の問題で、あなたが自分で見つけなければならぬことです」と。

しかし法蔵菩薩は重ねて申しました。

法：「これは私の力以上の問題です。どうか諸仏の世界(国土・浄土)がどのようにしてできたのか、そして救われていったのか、それを教えていただきたい」と。

法蔵菩薩の熱心な願いを聞いた世自在王仏は

世：「たとえば、大海の水でも、わずか一人の者が升で汲み取り、数限りない間それを続けたならば、遂には底まで汲みほして、海底の宝を手に入れることができるであろう。もし人間が志を建てて、一心に道を求めてやまなかったら、必ずその目的を成し遂げることができるであろう」と述べ、そして二百十億という、ありとあらゆる仏の世界と、人間世界の幸・不幸の有り様をつぶさにお示しになりました。

法蔵菩薩は、それらを目の当たりにし、そののち、五劫という途方もなく永い期間にわたって思惟せられて、そしてついには、この上のない勝れた願いをおこされたのです。それは、仏となって浄土を実現するための願い……いわゆる四十八の項目からなる「本願(四十八願)」なのです。

得度を受式して

市野 顕

法名 釋 顯 正

四月七日に京都の東本願寺にて得度を受けて参りました。生まれて初めてツルツル坊主にして恥ずかしさもありませんでしたが新鮮でした。

僕が生まれた家がお寺ということで、生まれた時から仏教が身近にあり、そして父の勧めもあり、得度を受けました。

得度を受けたきっかけが、僕が純粹にお坊さんを志した訳ではなかったもので、これでいいものかと最初は不安でした。

しかし僕以外の受式された方々のお話を聞いていくうちに、日常の生活と深い関係があるのだなと気付かされ、不安な気持ちには段々となくなりました。

法名は「釋顯正」になるのですが、「顯」という字は「あきらかにしていく」、「正」という字は「正しく」という意味があります。これは、仏教をあきらかに正しく

伝えていく願いがこめられているそうです。

この願いを聞いて、お坊さんになるということは、少し荷が重く感じました(笑)。しかし、得度を受けたからといってお坊さんになったというわけではなく、得度はお坊さんになつていくスタートだと教えられました。

これからは僕がお参りに行くことがありますので、その時はどうかよろしくお願いします。

東京教区のお知らせ

初めて聞く仏教講座 in 善照寺

今、いのちがあなたを生きている
— 大切です、あなたの存在 —

開催日 : 6月13日 日曜日 13時30分より

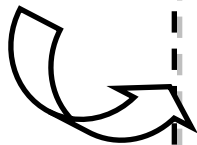
場所 : 善照寺(東京都八王子市堀之内3-12-19)

講師 : 三橋 尚伸 氏

対象 : 30歳代までの方

参加費 : 1000円

当日の日程



13時30分 受付

14時 開会

講義

座談

17時30分 閉会

「仏教ってなに？」

「普段から仏教とは全く関わりないんだけど…」

そんな方でも気軽に足を運べる仏教講座が開催されます！

若い同世代で集まり、皆で一緒に仏教に触れてみませんか？

少しでも興味を持っていただいた方は、

お気軽に、道誠寺 副住職までお問い合わせ下さい♪

(TEL047-337-5305)

宗祖親鸞聖人750回御遠忌お待ち受け大会

兼 親鸞聖人に人生を学ぶ講座 in 千葉組

開催日 : 6月27日 日曜日 13時より

場所 : 三井ガーデンホテル千葉

(千葉市中央区中央1-11-1)

内容 : 音楽法要

演奏・お話 : 近藤龍磨 + 鈴木君代 + 天白真央

参加費 : 1000円

開催の願い

御遠忌を目前に控え、今回の千葉組お待ち受け大会、並びに親鸞聖人に人生を学ぶ講座は、宗祖親鸞聖人が伝えて下さいました教え、南無阿弥陀仏のお念仏を私たち一人ひとりが今一度出遇いなおし、受け止め、確認する場となるようなことを願いとしております。

どうぞ、皆様、ご家族・ご友人お誘い合わせの上、この法要にご参加下さいます様、お願い申し上げます。

申込・お問い合わせは、道誠寺まで(Tel047-337-5305)

御懇志

※ホームページ上では

公表しません。

敬称略

どうもありがとうございます

ございました。

法語

聞法、つまり聞くということとは、聞きっぱなしにするのではなく、聞くことによつて案ずる。そしてその思案を全うすることのために更に聞く。命のあらん限り、聞くということと思案するということが必要である。

『曾我量深講義集』

曾我量深

◆敬弔

※ホームページ上では

公表しません。

生前のご功労を偲び、念仏合掌して哀悼の意を表します。

☆編集後記☆

◆『響』で、小寺利江さんのお名前を間違えて表記しておりました。また「行事の報告」では日時が多く間違えておりました。誠に申し訳ありませんでした。(釋光生)

編集発行人

〒272-0804

千葉県市川市南大野1-26-31

道誠寺 釋光生

URL <http://douzyouzi.com>

電話 047(3337)5305

FAX 047(3337)5306